

### III. 研究員による考察

#### 6. 森田倫代研究員による考察

「利用しやすい保育園」「ニーズに応える保育園」ということが強調され始めた平成12年に、入所待機児童数日本一と言われた横浜市で、特別保育を積極的に行う保育園としてきらら保育園は開園した。それから5年。当初は想定をしなかった色々なことが起こってきている。ここで一度問題点を整理してみたいと思う。

#### 延長保育

平成12年の開園当初から延長保育を実施してきた。午前7時から午後8時までの13時間の保育時間。「誰よりも長い勤務時間の子ども達」と理事長は言ったが、確かにその通りだった。昔から園へのお迎えの時間が間に合わないで困っている保護者の方は確かにいた。二重保育をしてくれる人を探してもなかなか見つからない。預けたい時間が合わないため認可保育園に通えない。いつもぎりぎりに間に合うように無理してお迎えに来る。そんな苦勞をしている人達の様子を目にして、もう少し長い保育時間だったらと思うことがあった。そんな保護者のために安心して長く預けられる保育園があったらよいのだろうと思った。

しかし、本来なら家でゆったりと過ごすべき時間を、保育園という集団生活で過ごすということに配慮しなければならない。私自身保育園で育った。その頃は母親が仕事をしている人はまだ少なく、まして長い時間働いている人は本当に少数だった。

砂場で弟と二人だけになって遊んでいた。お友達にお迎えが次々に来る中で、自分の母親はなかなか来ない。その待っている寂しさが今でも漠然と残っている。

現在の保育園の、夜8時までの保育では、外で遊びながら待つのは無理な事。

でも、昼間と同じ広い保育室では気持ちが落ち着かないだろうなという思いがあった。そこで、延長保育室はなるべく家庭と同じ様な雰囲気だと考え、畳やキッチンがある部屋を用意した。

利用しやすい保育園、居心地の良い保育園を目指して

保育園は小さい学校ではなく、大きなお家。第二の家庭と考えた。そこで、園舎全体を子どもも保護者もくつろげる雰囲気にと設計の時から工夫をし、居心地の良い保育園を目指した。木を沢山使った内装は、いまだに木の香りがする。玄関を入れてすぐのエントランスには、ソファとテーブルを置いた。普通保育時間の早い時間にお迎えに来るおじいちゃんとおばあちゃん。おばあちゃんが子どもを部屋まで迎えに行っている間、おじいちゃんはソファに座って園庭を見ながらくつろいで待つことができる。

もう少し中に入ると園文庫スペースがあり、ここにもちょっと座れるベンチがある。毎日お迎えに来るおばあちゃんは孫と本を1冊読んでから帰る。複数の子どもが絵本を読んでいる周りでは保護者同士でお喋りをしている。いつもより早いお迎

えで丁度おやつ時間に来たお母さん。ランチルーム前にある保護者のための園文庫から本を出して読みながら待っている。園文庫は大人の本も貸し出しているのも、それを選んでいいのかもわからない。床暖房の入っているホールでは、子どもの遊びに区切りがつくのを心地よさそうに座って待っている保護者もいる。

ゆっくりくつろげる保育園は家にいる時間を短くする

このような早い時間での迎えは、そんな素敵な雰囲気が嬉しくて見守っていたのだが、段々それだけでは済まなくなって来た。一番大変な時間は6時半前後だ。

「長時間保育」は4時30分から6時30分までなので、それまでに迎えに来れば無料で済む。その為か、この6時半頃にお迎えがピークになるのだ。そして、玄関近くにある延長保育用の部屋に移動してくる子ども達と交錯する。時には、自分は延長保育だと思っていた子どもが、延長用のおやつを食べようとしていた時にお迎えのお父さんを見つけ、何で今日はおやつじゃないのっ！と泣き叫ぶ始末。すると、明日はおやつが食べられるように遅く迎えに来るから今日は帰ろう。などと言って子どもをなだめている。「えっ？違うでしょ。」と思わず叫びたくなってしまふ。「延長保育」はそんな風に利用するものではない。早く帰れるときは帰らなくちゃ。

開園当初の頃は、4時半頃からはばらばらとお迎えに来たものなのだが、待機児童数が多い為、常勤で遠くまで勤務している保護者が優先的に入園してくるようになったこともあるのだろう。長時間保育が終わる6時半前後がラッシュの駅のような雰囲気になる。このような時間帯では、もっと早い時間での迎えの時と同じ様に園内でくつろいでいると大変なことになってしまう。絵本を読んでからと言って保護者を困らせる。なかなか帰りのお支度をやろうとせずに叱られる。そのうちにお母さん同士でのお喋りが始まり、手を離された子ども達は大騒ぎになる。そして、子どもの泣き声や保護者の方の叱る声が園内に響き渡るといふ始末だ。その喧騒は何だかんだで7時頃まで続く。延長保育に入った子ども達は既におやつを食べ終わっている。しかし、ぎりぎり延長時間前にお迎えに来てもらった子ども達は、疲れてお腹が空いているので機嫌よく過ごすのが難しいのだ。どうも「居心地の良い」保育園は、遅い時間のお迎えの人にはあまり良くないようである。少しでも早く帰ったほうが良い時間なのに、くつろげる場所があり、興味を引くものがあり、ますます帰宅時間を遅くしてしまう。さて、ここは何か早く帰ってもらわなくてはいけない。もう既に保育園でくつろぐ時間帯ではないのだから。

子ども達の様子を見ていく中で延長保育をしないという結論を出した保育園最近、お話を聞きたいいくつかの園では、延長保育はしないという方針だった。

もちろん、要望がないわけではない。本当に必要な事情がある人もいる。

そのような場合は、二重保育になるわけだ。しかし幸い、ファミリーサポートの制度ができた。それを利用して、毎日同じ家庭でその家族と一緒に食事を取り、遊びながら保護者の迎えを待っているということである。長い時間を集団でいる

緊張感は、第二のお家でほぐすことができる。お兄ちゃんやお姉ちゃんがいる家庭では、兄弟に近い関係ができるようだ。そのようなコーディネートをするのが園の役目というように捉えられていた。また、ある園では保護者同士で、都合のつく人が自分の子どもと一緒に他家の子どもも連れて帰るということを勧めていた。お互いに預けあうことによって得られるものは大きいようだ。

大人同士の信頼関係。「ありがとう」という気持ちに触れること。相手を気遣うこと。保育園の子どもは園以外の場所で子供同士遊ぶ機会が少ない。また、親が子供同士どのように一緒に遊んだり喧嘩したりするのかを見ることもない。親子にとって良い経験になる。しかし、このように子どもを預かったときに怪我をさせてしまったりしたらどうしようと思う人も多いようだ。確かに重大な事故が起こったら大変なことだし、配慮が要る。でも、それは本来自分の子どもにしなければいけない配慮と同じはず。

そこで、この保育園では保護者同士がお互いにファミリーサポートに登録をして、制度に乗って預け合っているということだった。怪我等の心配や不安を少しでも軽くするために、現代ならではの制度を利用した良い方法なのかもしれない。保護者同士の関係から育つもの

そんな中で私達の保育園でも友達のお母さんがお迎えに来る、そんな様子が見られるようになってきた。お迎えの方の登録にお友達のお母さんを指定したり、自分の子どもは既に連れて帰った方が、遅くなるので頼まれたと他家の子どもを迎えに来たりすることが少しずつだが増えてきた。

先日、一日保育士の体験に来られたお母さんが、「子どもが引っかけたりするのを何故よけられないのかと思っていたのですが、子どもの動きって早いんですね。」と話された時に、たまたま顔に怪我をした子どもが入ってきた。思わず「その傷、どうしたの？」と私が聞くと、そのお母さんが代わりに答えてくれた。「お友達同士で集まった時のものなのです。実は私が見ていて、まだ喧嘩にはなっていないと思ったので様子を見ていたら、いきなり手が出てしまったのです。見ていたのは私だけだったのでその子達のお母さんに何て言ってよいか困ってしまいました。先生って大変だなってつくづく思いました。」それが先程の発言につながっていたのだ。こんな経験がないと、些細なトラブルを結果だけで捉えて、すべて園への苦情としてしまうことも無理がないのかもしれない。喧嘩をして小さい怪我などは、むしろすることの方が大切な時期。言葉ではなかなか理解できないことを体験していただける機会はとても貴重なことだ。保育園を理解していただくためにも良いことだろう。そんな関係をコーディネートすることも保育園の新しい役割かもしれない。

延長保育があるために育児時間が短縮されたり残業を要求されたりする最近では、職場でも延長保育があるなら長い勤務ができると解釈される場合があるよう

だ。大人が仕事をするには労働基準法で労働時間が制限されている。子どもの保育時間にも制限が必要なのではないかと、という意見が保護者の方から出された。

このことを中央の方で行ってほしいと言うのである。今まで気付かなかったことが不思議なくらいもったもなことである。子どもは一見何とかなっているように見えて、実はどこかに歪みが生じているのではないかと感じる。それらは、子どもが大きくなってから様々な症状で出てくるのではないだろうか。

保護者の都合で預けられる子ども達

独身の頃に公立の保育園に勤め、子育てが落ち着いてから認可外保育園に勤務していた人が、最近我が園のパートで働いてくれるようになった。認可外保育園に勤めた時、まるでデパートの短時間託児所のように、いやむしろ荷物預かりのような感覚で、お母さん達に預けられているように感じてしまったという。保育事業は子どもの福祉だと思ってやってきたのに、何か違和感を感じてきたようだ。

保育園を選ぶために複数の園を見学に行った保護者が、「子どもは荷物ではありませんから」と言われた保育園に決めたと言う話を聞いたことがある。そう、子どもは荷物ではない。保護者の都合だけで預けることができそうだが、そうではないということに気付いて欲しい。

私たちは、本当に困っているお母さんを見てきた。その方達は少しでも長く預かってもらえないかと本当に切々と事情を話された。でも、昔は制度が整っていない中での延長保育は難しく、なかなか実現できなかった。閉園時間ぎりぎりに走りこんできたり、遅れてしまって罰が悪そうに入ってきたり、お母さん方の苦勞がまさに目に見えていた。そのような人のために本当に延長保育があってくれたらと思ったものだった。

その後、段々と制度化がなされていく中で、保護者の方の認識が徐々に変わってきているのではないかと感じるようになってきた。困っている時や窮状を助けてもらう制度ではなく、権利として捉えているのではないかと思うようになってきた。そして、保育園によっては延長保育制度を始めた以上、利用してくれる子どもがいなければやりようがないのだから、「お母さん、もっと遅くて良いですよ。」などと声を掛けなければならなくなることもあるようだ。これでは、ニーズへの対応ではなく、新たなニーズの発掘になってしまう。

延長保育前の長時間保育が心配

当園では延長保育時間に入る前の「長時間保育」を行う子ども達が、普通保育の時間と殆ど同じ人数がいる。おじいちゃん、おばあちゃんの協力のある人か育児休業中のお母さんぐらいしか普通保育時間内にお迎えに来ることがない。以前のように長時間保育は「特別な時間」ではなくなってしまった。人数が多いため、長時間保育だからといって、一つの場所に集めて一緒に保育するのは無理な状態である。

そのため、小刻みなシフトで勤務を終え帰った職員の後には、パートの保育士を何

人か投入しながらも、昼間と同じようなクラス編成を崩せない。お掃除や保育準備も子どもの中で行うしかない。職員体制には大変苦勞するところである。そして、何よりも子どもが疲れてくる。トラブルや怪我が発生しやすいのもこの時間帯である。しかもやっとお迎えが来たとき、お母さんやお父さんの顔を見て喜んで帰ろうとする子ばかりではない。文句や悪態をついてぐずったりということも増えてきたように思う。以前は「勤務時間+通勤時間が保育時間」という考えだった。その為、一人ひとりのお迎えの時間がほぼ決まっていた。横浜市では、6時30分までの長時間保育は親が区役所に申請を出して認めてもらい、区役所から園に通知が来るというシステムである。開園当初、長時間保育の申請を園にも提出してもらっていたところ、保護者からクレームが来た。役所で認められているのだからよいではないかと。そういうものなのかと思い、長時間保育を認められる人イコール6時30分まで、という解釈で行ってきた。それが、前述したような6時半前後から7時頃までの喧騒につながるわけである。そこで、最近、もう一度、「勤務時間+通勤時間が保育時間」ということを保護者に伝えることにした。中には、母親の仕事は早く終わっているのにサービス残業をして父親の帰りの時間に合わせて一緒にお迎えに来て車で帰ると言う人まで出てきていたし、兄弟の園児を一人ではお迎えができないという親まで出てきそうだった。

また、買い物をしてからのお迎えも多いようだ。午後6時頃の近所のスーパーは、保護者がいっぱいと言う噂が流れたりもしている。

#### 保護者の立場を理解する

「買い物袋を持って帰るといやな顔をされる。小さな子どもを連れての買い物は大変で時間がかかるから少しぐらいなら認めて欲しい。」「外勤の仕事をしていて、たまたま家の近くにいるときに洗濯物を取り込みに帰ったところを保育園の先生に見られて、仕事が休みなら保育園は休んでくださいと言われた。」「保育時間を過ぎて帰ると子どもは玄関の外で保育士と待たされていた。」など様々な苦情が保育の世界に寄せられてきた。確かにそんな保護者の気持ちはよく分かる。その後、役所にも保育園にも苦情処理の制度ができ、苦情の受け入れをしてきた。できるだけ保護者の気持ちに添った対応をしていく。ニーズを受け入れていく努力をしてきた。

今では、要望があり制度があれば受け入れることが当たり前になってきた。そして、仕事が休みの時や出張などで早く帰ってきた時にも長い保育時間は変わらないということも当たり前のことになってきている。その上、携帯電話が普及したことで、親は自分のスケジュールを園に細かく伝えておかなくても連絡はできるようになった。その為、保護者の方が仕事に行っているのか私用で動いているのかを把握することも難しくなった。勿論、仕事だけでなく、色々な手続きや体調の悪い時、病院に行きたい時など、子どもと一緒にないほうが助かる事もあるだろう。たまには美容院に行きたい、バーゲンにいきたい、観劇をしたいなど一時保育で云うリフ

レッシュ的な過ごし方をしたい時もあると思う。それも必要な事だろう。でも、そんな日はいつもより早くお迎えに来るチャンス。折角なのだから、長時間保育にならない時間帯にお迎えに来て、子どもとゆっくりした時間を是非過ごしてもらいたい。

そして延長保育

「延長保育」になると有料になるので、利用する方も本当に必要な方に限られ、人数は減ってくる。異年齢の子どもを集めて、家庭に近い環境の部屋に移動することができる。空腹は人の心を乱す。おやつや食事を摂ることによって落ち着きを取り戻す。そして、延長時間独特の遊びが展開していく。それでも日によっては 20 人近くなることがある。人数が増えてくるとまた難しさが発生してくるので、人数の多い日は 2 つのグループに分けるなどの工夫をする。

午後 7 時ちょっと過ぎにお迎えに来た保護者が、ちょうど食事が始まったばかりの子どもの隣で食べ終わるのをのんびりと待っている。7 時ぎりぎり、時にはその前に保育園に着くにも関わらず食事を申し込む方もいる。お家でご飯を食べさせなくて済むから食べていくのだろうかと思えることがある。延長保育の場合、利用料はおやつや軽食の費用とされているから、お金をいただく以上食事を出す義務があるわけだ。そして、結構長い時間親を待たせることになる。制度として、延長の保育料と食事代を別にしてくれれば、このような時は急いで帰ってお家で一緒に食事ができるのと思う。

大人の都合に合わせた延長保育が子どもに与える影響

延長保育を始める前に、先駆けて行っている園の園長先生の話聞いたことがある。「長時間の保育をしていくことは、子どもにとってどのような影響があるのだろうかと思う。体重や身長のように数値が出て教えてくれるものなら良いのだけれど、目に見えないところで色々な影響が出ているのではないかと不安。」というようなお話だった。その時は、あまり気に留めなかった言葉が、5 年間延長保育を行ってきた今、心に響くようになった。

昼間の子ども様子でも心配な場面が増えてきた。自分がやりたい事ができないとキレて怒ったり、物や人にあたる。保育士、保護者、お客様など大人に向かって悪態をついて、いやな気持ちにさせる子どもが以前より見られるようになった。

ある本で保育士が幼児の行動が変化していると感じていることを報告しているものがあつた。「自己中心児が増えた」「言動が粗暴になった」「何かあるとすぐパニックになる子どもが増えた」「親の前では良い子に変身する」というような内容だった。

まるで同じような状況が、私達の園の子どもにもある事に改めて気付かされた。

自分を抑えられずパニックになり乱暴をしている子どもを見ていると、本当はやりたくないのだろうなという事が分かる。子どもは何かのきっかけで普通の状態に戻りたいのだ。だから、ふとした瞬間にスーッと普通に戻る場面がある。そういう

隙が必要。あまり相手をしすぎてもいけないようだ。一体何が子どもの中に起こっているのだろうか。

既に保育園の環境には十分慣れているはずの時期なのに、朝、母親（父親）と離れられず難癖をつけては困らせている子どもがいる。帰りは帰りで母親（父親）がお迎えに来てはすぐに飛びついて行くことなく、もっと遊んでいたかったなどと言って帰りの支度をせずに困らせる子どもも増えている。親の方は保育園に行くのを嫌がるから園で何かあるのではないか。それこそ、ちょっと喧嘩したことなどを大きく取り上げようとする。親のその気持ちに添ってみもしたが、どうやら違うようだ。精神科医の佐々木正美先生によると「お母さんから離れられない子どもというのはその子が何歳何ヶ月だろうと、それまでお母さんがどんなに愛情を注いできたのであろうと、もっと、まだ、僕はお母さんから愛してほしいと言っているのだということ、しっかり知っていただきたいと思う。結局は、お母さんの愛情に安心感を持たば持つほどお母さんから離れやすくなる。朝、離れにくい子どもというのは、夕方お母さんが迎えに来た時にすっ飛んで行くかということと行かない。もしそういう子がいたら、どのような愛情をこの子にかけてあげると安心するか、納得するかということをお家で心掛けるといいと思う。」とお話されていた。

生活リズムもうひとつ気になる事は、子どもの生活リズムの乱れである。私達が小さい頃は、夜8時には寝るのが当たり前だった。でも、今では8時まで延長保育をしているのだから、それは無理というものだ。就寝が10時を過ぎる子どももいる。中には11時以降という子どももいるようだ。

そして、「それもしょうがないわよね。」という意見が親の中から出る。もっと早く寝かせなければいけないとなると、お母さん自身のストレスになるのだ。だから、その意見を聞いてほっとするお母さんもいるわけだ。しかし、だからと言って子どもに良いわけではないし、更に巡り巡って親がもっと大変になっていくことは目に見えている。遅く寝れば翌日の朝は起きるのがつらくなる。自分で機嫌よく起きるのではなく、叱られながらやっと起きることになる。まだ、きちんと目が覚めていなければ、朝食はなかなか進まないだろう。そのうちに、いつも食べないからと子どもの朝食を用意しないことになったりする。まして、両親が朝食を摂らない習慣の家ではなおの事。また、遅くまで在園している子どもは、朝も早くから登園することが多い。時間がないのは尚更だ。

3歳未満児には、軽い午前おやつがあるが、幼児になればお昼の給食まで食べるができない。保育園の午前中の活動は活発だが、思い切り体を動かすことも億劫になるだろう。

せめて夜9時までに寝かせるためには、どんな努力ができるだろうか。私たちは園日より子どもが本来生活していく上で理想的な一日を想定してみた。そして、それぞれの家庭の事情や保育時間を考慮して作っていかうと試みている。

夜8時まで保育園で過ごすとなるとその後どのような生活をすればよいのか。確かに大変である。親の食事時間を取ると子どもの入浴や就寝時間はますます遅くなり、機嫌も悪くますます大変になる。色々な工夫をしているようだが、毎晩困っている方も多いようだ。それでも、夜9時までには寝かせたい。子どもの身になれば、どんなに頑張っても夜10時では遅いと思う。以前は、子どものペースに大人が合わせるのが当たり前。大人にはそれだけ調整できる能力があるからと思っていたが、そんな考え方も崩れてきてしまったようだ。

大人が忙しいから子どもが大人に合わせるのが当たり前というようになってきている。そして、親の目には子どもは何とか合わせてくれているように見えるらしい。テレビやビデオ、TVゲームも忙しいお母さんを助けてくれるグッズのようだ。

それらが子どもの生活を狂わせている。3歳までのテレビ視聴が子どもの脳の発達に良くない影響があるかもしれないと言われ始めた。テレビは時間になれば番組が終わるから、まだしも区切りがつく。困るのはビデオ。操作の仕方は2~3歳で覚えてしまう。自分で何度も繰り返して見ることができる。ビデオはできるだけお休みの日にイベント的に見ることを勧めている。TVゲームは幼児の間はやらないに越したことはない。困るのはお兄ちゃんなど兄弟がいる場合だ。なかなか苦労のようだ。いずれにせよ必要なのは、「子どもの生活リズムを整えてあげよう」という親の意識である。「まあ、いいや」「子どもが言うからしょうがない」では、悪影響が出てきた時に泣くに泣けない。

長い時間を保育園で過ごしていることだけで、子どもは相当頑張っているのだという意識も必要。勿論、親も頑張っていて疲れていて大変なのだろう。でも、大人は自分で調整でき、責任も取れるはずだ。子どもは大人のなすがままなのだから、やはり大人が気を付けてあげなくてははいけない。

量より質ではなく、質より量

育児は「量より質」というもっともらしい言葉で今まで、何とか短い育児時間の言い訳をしてきた。でも、子育ては量を確保しなければ質も上がらないのが実際だろう。子育てしながら自分も育っていくのが親である。何人もの子どもを育ててきた親業ベテランの人は短時間でも子どもの心を捉えた「質」の部分で大丈夫かもしれない。しかし、独身時代に子どもと触れ合う機会もなく、まして初めての子子どもだったら質の確保などとても難しい。5分間ぎゅっと抱きしめてあげても、子どもの心が満足しなければだめなのだ。そして、一緒にいる時間が短ければ、いずれどう接してよいか分からなくなり、苦手意識さえ持つようになる。土、日をどう過ごしてよいか分からない。だから自分達も楽しい遊園地や映画に行って過ごす。近くの公園や家で過ごすことができなくなっている方もいるようだ。

おばあちゃんが協力的だという保護者の複雑な気持ちを個人面談で聞く機会があった。親としては安心だし楽だし有り難いと思っている。仕事で帰りが遅いので、

夜も寝かせてくれている。でも、早く帰れた時でも自分では上手く寝かせられないとおばあちゃんに任せてしまう。ところが子どもがおばあちゃんと楽しそうにお風呂に入っていると、嫉妬を感じるという。その人は、離婚をしているので、「自分が母親なのか父親なのか分からない。きっと、お父さんの役割なのだと思う。」と言った。子どもと接する事がだんだん苦手になる。加えて仕事では同僚に負けたくない。自分はお父さんだ、と決めてしまえば精神的に楽なのだろう。その時、主任は次のように話した。「離婚して、今のお母さんのように考えて子どもを育ててきた友達を何人か知っている。弱い子は引きこもりになり、強い子は家庭内暴力になってしまった。その子達は、今 20 代後半だから、難しいがまだ何とかなるかもしれない。でも、それは一例だけではない事実。子どもがお母さんに気遣いながらも求めている今なら、十分に間に合うから是非お母さんでいてあげて欲しい。」

子どもは一見何とか大丈夫そうに見える。でも、どこかで違うよというサインを出しているはず。大人に都合が悪いと、つい見過ごしてしまう。そこを見過ごさないように保育士も援助していかなければいけないのだろう。

あってよかった公立保育園での制約？

公立保育園ではいろいろな制約がある。例えば、1歳になるまでは長時間保育をしない、延長保育はしない、などだ。それは、まるで行政の怠慢のように、また、職員の勤務体制が硬直化してできないのではないかと思っていたこともあった。

最近では公立保育園でも徐々に特別保育を実施し始めている。そのような先生方が実際の様子を知るために見学に来たり、具体的な運営方法を聞きに来る。勿論、そういう時は現状をお見せして書類や職員体制のお話などをする。

しかし、最近、最後に一言付け加えさせていただくようになった。それは、子どものためを思えば特別保育を闇雲に進めていくことは不安だということだ。「特別保育」はあくまでも「特別」な保育体制だと思う。特別に必要な人はいるから必要だ。しかし、本来は「一般の人」までも「特別な人」にしかねない今の特別保育。

もう少し、子どものために考えてよい時期ではないかと思う。私達は多かれ少なかれ子どもから母親を奪うお手伝いをしているのかもしれない。現在、特別保育を行っていないことにより、その園のお母さん達は「大変だ」と思いながらも色々な努力や周りの協力を助けに何とか切り抜けているはずだ。そして「大変」な事だから、かえって「子どもに心が及ぶ」のだ。そんな気がしてならない。

フリーターやニートと言うことばが生まれてきた社会

お母さんが「立派に働いて社会人としての義務を果たす」ために、家庭の基地であり得なくなっている。その反面、きちんとした職につかない働き盛りの若者が増えている。それで良いのだろうか？

個人がいて、家族があって、そして成り立っていた社会。それが、社会が成り立つために家庭が犠牲になり、個人がだめになってきている。

このままでは今育てている子ども達の未来に学校崩壊「引きこもり」「家庭内暴力」、そしてきちんと就職をしない「フリーター」やそれさえもしない「ニート」などが更に増えてしまわないか。子どもをどう育てていけばよいか分からなくなり、挙げ句に虐待などということがあり得ないだろうか。子どもには親との時間、くつろげる家庭での時間がどうしても必要である。そのための大人の負担は、長い目で見たら犠牲などではないはずだ。結果的に子どもから親を奪ってしまいかねない保育の形態は、(必要な特別保育は慎重に提供しながら) 考えていかななくてはならないと思っている。

#### 一時保育

一時保育は、開園と同時に始めた。個人的には延長保育に使おうと思っていた部屋を「一時保育」の部屋として申請したら認めていただけた。自主的に始めたので、特に保育時間などの指定はなかった。そこで、基本時間を普通保育でいう 8 時 30 分から 16 時 30 分とした。そして、単位は半日 4 時間とした。事前に面接をし、必要書類を揃えて登録して貰う。その後、予約を取って利用していただいている。

#### 非定型

週に 3 回以内の就労。つまり、お母さんが保育園に入る要件にならない仕事をしている人が主な対象である。また、学校などに通っている方もいる。しかし、現在は、待機児童数の関係で認可保育園に入るのがとても難しくなってきたため、本来は保育園に入れて常勤で働きたいが無理なので勤務を控えている。または、他の日は認可外施設に預けたり、おばあちゃんに預けたりしながら勤務をしているという方もいる。また、兄弟に障害者がいてその通園施設に通うためにその曜日だけ利用しているという方もいる。

非定型の方は定員の 8 割程度と考えている。その他に緊急、リフレッシュの枠を確保したいからだ。また、原則として延長ではお預かりしていない。半日利用の場合は 8 時 30 分から 12 時 30 分までとさせていただいている。最初は時間内なら 4 時間以内の利用でよいことにしておいたのだが、中途半端な時間や午後からの利用だと、子どもの保育としてはいろいろと支障が生じて来る。そこを理解してもらい協力していただいている。

#### 緊急

14 日以内の利用で、1 回更新ができるので、最長 28 日以内の利用ができる。例えば、お母さんが下の子のお産をする場合や入院している家族を看護する場合、冠婚葬祭の際などの利用がその対象となる。中には、区の保健師からの紹介で虐待や育児ノローゼの方の子どもを預かることもある。その場合は関連機関との密接な連携が必要になる。

時間は原則として、普通保育時間内でお願いしているが、緊急の場合は事情により柔軟に対応している。

お産の入院の場合や手術のための入院は、それまでに時間があることがあるので、当日までに半日の慣らし保育をしてもらうこともある。

#### リフレッシュ

リフレッシュは、子どもと一時的に離れることにより子育てのストレスから解放され、その後、健全に子どもと関わるためのものである。その間母親は何をしても自由なわけである。テニスに行く人、習い事に行く人、ショッピングや美容院に行く人。理由は様々である。中には子どもの兄弟の幼稚園や学校の行事や懇談会に出席するためという方もいる。

利用は1日とされており、希望する1日だけを予約してもらうことになっている。

次の予約は、当日の利用が終わった後取ることになっているので、思い通りには取れないこともままある。

#### 保護者のニーズに応えきれない一時保育の意味

その後、横浜市で一時保育を義務付けられた保育園では7時30分から18時30分という保育時間で行っている。それを承知しながら、緊急以外の原則は普通保育時間の8時30分から16時30分にこだわっている。保護者にとってはもう少し何とかならないかしらと思うだろう。利用しづらいこともあるかもしれない。ただ、一時保育の場にまで長時間子どもを預かる仕組みを取り入れることに、なかなか積極的に踏み込めない。

実はこの一時保育のクラスは、意外なことにとっても落ち着いている部屋なのである。いや、これはむしろ意外なことではなく、親との生活時間の長さからか気持ちが落ち着いている子どもが多いためなのかもしれない。もちろん初めて登園する子は泣いてしまい、保育士が暫くなだめているということはある。ただ、慣れてしまえば、言動ともども落ち着いている子どもが多いのだ。

一時保育で気を付けていることは、どのような理由で預けるのか。保育している間、保護者はどこで何をしているのかを明確にしてもらうことである。特に、リフレッシュ利用は理由を問わないため、当初はそれを明確にしないで預かってしまう例があった。そういう時に限って子どもの具合が悪くなり、携帯電話がなかなか通じないようなことがあったりした。また、保育をしている上での保育士の気持ちにも影響してくる。理由が分かれば、例えそれが本当に遊びであっても心広く預かることができるのである。これは仕事以外で保育園に預ける親への対応と同じである。

保護者が保育園での子どもの様子を共有したいように、保育士も保護者の背景を共有することは、その子どもと接していくためにも大変意味があると思う。

また、やはり子育てのサポーターとしての意味は大きいようだ。子育ての相談や躰の仕方など、預けている中で理解できることも多いようだ。少なくとも育児の孤立化からは逃れられる機会になるのかもしれない。

このような一時保育は、親だけでなく子どものためにもなっていると思っている。